

令和5（2023）年度 第1回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和5（2023）年6月6日（火） 午後6時30分～午後7時45分
- * 会 場 柏崎市役所 4階 4-3、4-4会議室
- * 出席委員 10名 佐藤幸治委員、片桐秀樹委員、前澤佳奈子委員、蓮池純夫委員、八木千代子委員、遠山みちる委員、松谷久美子委員、川本浩子委員、土田由紀委員、猪爪拓也委員
- * 欠席委員 なし
- * 事務局 8名 宮崎靖彦教育部長、【学校教育課】矢沢欣也課長、田中雅樹課長代理、平野克之副主幹、横田則子主査【保育課】笹川洋課長代理【商業観光課】土田洸希主事、入澤梨央主事

1 開会 司会：田中課長代理

2 挨拶 宮崎教育部長

「かしわざきこども大学運営協議会」の委員の改選があり、新たに令和5（2023）年度・6（2024）年度の2年間の任期で務めていただく。

「かしわざきこども大学」の事業も16年目を迎える。この事業の目指すところの一つに、「学校や家庭だけでは体験できない様々な活動を通して、子どもたちの生きる力を育む」がある。今日の会議では、今年度予定している事業とそれにかかる予算の説明をさせていただく。個々の事業が「かしわざきこども大学」の目指すところに近づいていけるように、委員の皆様から知恵を頂戴したい。

新型コロナウイルス感染症が、令和5（2023）年5月8日から感染症法に基づく分類が第5類となった。しかしながらウイルスが消滅したということではないので、それぞれの事業を実施するにあたっては、適宜判断をして実施していきたい。

3 委員・事務局自己紹介

委員名簿の順に自己紹介

4 会長及び副会長の選出

かしわざきこども大学運営協議会設置条例第5条により、立候補者を募るが立候補者なし。事務局から次のとおり提案。

会 長 佐藤 幸治委員

副会長 前澤 佳奈子委員

一同異議なし。

議事 進行：佐藤会長

(1) 令和4（2022）年度 決算について 【事務局】

ア コース全体について 資料1

令和4（2022）年度かしわざきこども大学決算書に基づき説明。

イ こどもの笑顔創造プロジェクト補助金 資料2

対象10団体の報告に基づき補助金の金額の確定を行い、計2,446,000円の補助金を交付した。

－質疑・応答－

なし

(2) 令和5（2023）年度 実施予定事業、予算について

ア 各コースの概要、予算について 【事務局】 資料3

財源である「かしわざき子ども育成基金」の残高が減少してきていることを踏まえ、事業規模を縮小し、750万円規模の予算編成としている。

昨年度の事業から科学実験コースとドリームコースを休止し、「自然体験コース」「キャリア教育コース」「ロボット工作コース」の3つのコースと、「こどもの笑顔創造プロジェクト」「学校教育活動推進事業」を実施予定。

イ 各コースの実施計画等について

(ア) 自然体験コース 【事務局】 資料4

市内の幼稚園・保育園の園児、県立特別支援学校の小中学部の児童生徒を対象とし、柏崎市の自然の素晴らしさを体感することを通し、様々なことに興味を持ち成功体験を重ねる機会を提供し、子どもたちを育むことを目的にしている。

今年度は、柏崎市内幼稚園・保育園31園中29園491名の園児、県立はまなす特別支援学校の1校5名の生徒を対象に、柏崎・夢の森公園、県立こども自然王国での体験プログラムの実施を予定。

(イ) キャリア教育コース 【事務局】 資料5

「いきいきゲーム」とは、世界経済の仕組みや、社会の仕組み、働くことについてを1日かけて楽しみながら学ぶシュミレーションゲームである。

令和5（2023）年度の実施予定校は、昨年度と同様、柏崎翔洋中等教育学校、瑞穂中学校、第二中学校、東中学校の4校10クラスである。

(ウ) ロボット工作コース 【事務局】 資料6

新潟工科大学と連携し、事業を進めている。「ロボット工作クラブ」は、各小学校のクラブ活動に新潟工科大学の学生が訪問してロボットを作る指導を行う。昨年度は5校で実施したが、今年度は2校減り、3校の実施。ロボットの制作時間の都合上、クラブ活動を6回以上行える学校を対象としているが、行事削減の流れから年間のクラブ活動の回数が減少し、年間6回の実施が出来なくなっていることが要因と考えられる。「工作教室」では、全市の小学3年生から6年生までの児童を募集する。昨年度は令和5（2023）年2月25日に開催し、13名が参加した。今年度は、令和6（2024）年2月17日に実施予定。昨年度の参加者が2名と少なかったことから、制作したロボットでゲーム大会を行う交流競技会は中止とする。

(エ) こどもの笑顔創造プロジェクト 【事務局】 資料7

計10団体から交付申請を受け、交付決定した。補助金合計1,942,000円。

「柏崎小学校創立150周年記念事業実行委員会」「枇杷島小学校創立150周年記念事業実行委員会」については、今年度新たに交付申請があり、交付決定した団体である。

(オ) 学校教育活動推進事業 【事務局】 資料8

交付金として、小学校は、1校145,000円＋クラス数×8,500円、中学校は、1校135,000円＋クラス数×8,500円を支出。様々な体験活動や地域との関わり、食育等の取組を行っている。

－質疑・応答－

【委員】 自然体験コースについて、借上げバスの利用がない園は、園で所有のバスを使用するということか。

【事務局】 園で所有しているバスがある場合には、そのバスを使用してもらっている。

【委員】 所有のバスがある園は、そのバスを使用することになっている。勤務園では、登園児の送迎の時間の関係で10時半からしか出発できない、14時半には園にバスが戻っていないといけないという制限があり、借上げバスを利用したい思いもある。

【委員】 園の送迎の時間と重複するということだが、昨今、色々な事故事件も起きているので、できるだけ余裕をもった配車や運用をしていただければと思う。

【委員】 「学校教育活動推進事業」は様々なテーマが挙げられているが、学校ごとにそれぞれが計画を立てて活動しているということか。

【事務局】 そのとおりである。

【委員】 活動の選定基準はあるのか。

【事務局】 実施要領の中に、具体例がいくつか明記してあるが、広く示されているため、概ねの活動は可能である。

【委員】 これまで選定されなかった活動はあるのか。

【事務局】 これまでにはない。

【委員】 かしわざきこども大学の財源は、毎年かしわざき子ども育成基金を取崩し捻出している。事業を廃止して、新たな事業の立ち上げを考えるとしても、これまでやってきている事業の内容から、どれも続けていくべき事業だと思う。今後の財源の確保が懸念される。

【委員】 財源については、かしわざき子ども育成基金の他に、多少の寄附金などあるが、収

入額よりも支出額が多いので、基金の残高が大きく減少している。少子化の影響や、学校のクラブ活動の回数が減少した結果、参加者が減少していることから事業を縮小しているものもある。

【委員】 予算を縮小する中で、「こどもの笑顔創造プロジェクト」などで新規団体から応募があった際にどう調整していくか。

【委員】 既存の事業は課題を克服しながら、優先度が低い事業を休止し、令和6（2024）年度以降、意見をいただきながら新しい事業を展開する予定があるのか。

【委員】 新しい取組を考えたときに、既存の事業の内容も充実しているので、どの予算を削減していくか線引きが難しいと考える。

【事務局】 昨年度の議論の中で、事業を見直し、事業規模の縮小ということを念頭に、令和5（2023）年度の事業、予算について検討し、今年度の事業を組んでいる。しかし、今後の方針については、毎年度この運営協議会で御検討いただきながら、また新規の事業があればそれを取り入れていく。かしわざきこども大学事業は、基金を財源に事業費を執行しているため、基金の残高が減ってきているのも事実ではあるが、新たな財源の確保の可能性を含めて、今年度、検討していきたい。また令和6（2024）年度に向けての新たな事業展開、新たな財源の確保の動向等が見定まりつつあうような状況ができれば、皆様に御報告したい。今の子どもたちや今の学校現場の中で、「こういったものがあるといい」といった忌憚のない御意見を引き続きお聞かせいただければありがたい。

【委員】 「こどもの笑顔創造プロジェクト」は地域団体が対象となっており、地区コミュニティ振興協議会も参加しているが、どのように広報しているか。

【事務局】 「広報かしわざき」への掲載や市のホームページで広報している。各コミュニティセンターや、小学校、中学校、保育園・幼稚園に対しては、メールでも周知している。コミュニティセンターから、多くの応募をいただいている。

【委員】 令和5（2023）年度の応募団体の中に新たに加わった団体で小学校の周年事業に係る事業団体が2つある。この2校から周年行事をするにあたって、教育委員会の方に「補助金等でもらえるものはないか」という問い合わせがあったのか。それとも「こどもの笑顔創造プロジェクト」の主旨を見て学校の方から応募されてきたのか。

【事務局】 柏崎小学校、枇杷島小学校から150周年記念事業に使える補助金はないかという問い合わせがあったわけではなくて、自主的に申請を検討された。遠山委員が言われるように学校の創立150周年をお祝いする記念事業なので学校行事の色合いが強いが、この「こどもの笑顔創造プロジェクト」の応募団体としては学校単独でなく、必ず地域と連携することを条件としている。柏崎小学校、枇杷島小学校に対しては、学校だけで完結するものではなくて広く地域住民の方と一緒に取り組むようなものや地域住民が広く参加できる形を取り入れるよう説明している。

- 【委員】 「こどもの笑顔創造プロジェクト」の要綱で、事業を継続していくという条件があったと思うが、1年の間で継続するという意味か。
- 【事務局】 単発の事業ではなく、年間を通して活動する事業を条件としている。柏崎小学校、枇杷島小学校には式典だけでなく、年間を通しての活動が条件となる旨を伝えている。
- 【委員】 無駄を省き、限りのある事業費を有効に活用するという考え方が大前提だが、団体によって不公平があってはいけないと思う。自然体験コースにおいて、園で所有するバスがあるとしても、往路だけなど部分的に借り上げバスを利用できないか。また、小中学校のスクールバスを使ってはダメなのか。利用できるものや活用していくべきと考える。
- 【事務局】 「自然体験コース」のバス借上げ料については、以前は、全ての参加園に借り上げバスを配車し、送迎を行っていた。経費の効率的な執行の観点から、現在は、バスを所有している園はそのバスを使用してもらうこととしている。ただ、不都合が生じてきていることも事実であるため、今後のやり方を考えていきたい。
- 【委員】 民間事業者からバスを借り上げるのではなく、使える時間があればスクールバスを使用することができないか。
- 【事務局】 スクールバスを園児用のバスには使えないと思われる。確認して回答したい。
- 【委員】 園が所有するバスを使用していることで、保護者への負担はないのか。通園以外でバスを使うときに、保護者の負担が発生していないか懸念される。
- 【委員】 勤務園では、保護者から費用を徴収していない。別途バス代を保護者から徴収している園があれば不公平であるため、聞き取りをした方がいい。
- 【事務局】 保育課で聞き取りを行い、報告する。
- 【委員】 これだけのグローバル化社会の中、グローバルをテーマとした事業がない。今は、韓国や台湾への旅行も身近になり、外から日本を見ることが出来る。今まで海外交流が出来るような提案があったのか、これからできるかどうかを教えていただきたい。世界情勢が変化している中で、子どもたちが大人になるときには環境が大きく変わっているように思う。
- 【事務局】 現在のかしわざきこども大学の事業には、海外交流をテーマとしたものがない。今後学校としての取組の中で出てくる可能性もある。貴重な意見として受け取る。
- 【委員】 限られた予算の範囲の中で、広く浅く平等に事業を運営していくのは難しい。オンラインで市長の海外出張のレポートを試みることができないか。柏崎市では、海外の人との交流の機会が乏しいと感じる。また、「こどもの笑顔創造プロジェクト」で各応募団体は、予算の削減について話し合ったのか。
- 【事務局】 資料7の表の「実施体制」に、この事業に関わっていただいている団体が記載されている。地域団体、小学校、中学校が実施体制となっており、事業の計画、運営をしている。補助金要綱に基づいて申請いただいている。補助事業の予算の大小ではなく、補助事業の内容で審査している。
- 【委員】 国際交流について、勤務園でも試みを始めている。企業でオンラインの活用により、いろいろなプログラムを企画している。シンガポールの園と園児同士がオンライ

ンで交流するというものや、ブラジルのパークバレイの方とオンラインで会話するといった取組を行った。これから、国際交流は必須になると思う。企業も様々なプログラムを用意しており、私たち職員も子どもたちにとってどれがよいのか、どういうところとマッチングするかということを探しているところである。事前にビデオレターを交換し、コミュニケーションを図るものなど、今の時代だからできる活動がある。そこまで高い金額を出さなくても出来るものが出てきている。

【事務局】 水球の縁で市内の中学校と海外の中学校とがリモートで交流した例がある。今後、小中学生や高校生と海外の水球選手との交流の計画もある。コロナ禍前は、合宿等で来泊された海外チームの選手等と柏崎の中学生との交流を行っていた。今後もそういった機会を設けていけるよう考えていきたい。

【委員】 過去には、かしわざきこども大学事業として、公益財団法人柏崎地域国際化協会と連携し、中学生高校生を対象とした海外研修コースを行っていたこともある。

【委員】 皆さんがこれまで実践してきた取組や、現在行っている活動事例などを生かしながら新しい取組を考えていけたら良いと思う。

4 連絡事項 【事務局】

(1) 今後のスケジュールについて

ア 第2回運営協議会…10月中旬を予定（令和5（2023）年度実施事業の報告、令和6（2024）年度実施予定事業・予算の検討）

イ 第3回運営協議会…3月上旬を予定（令和5（2023）年度実施事業の報告）

(2) その他

ア 本日の報酬と費用弁償については、令和5（2023）年7月21日（金）に支払い予定。

イ 令和4（2022）年度事業報告について実績報告書を作成し、原案を8月に送付する。御意見等をいただきたい。

5 閉会 矢沢課長

子どもたちの育ちにとって体験活動の意義は重要である。学校、地域、保育園幼稚園等が母体となって子どもたちのために、特色のある豊かな有意義な活動が展開されている。かしわざき子ども育成基金に込められた願いは尊い。その思いを受けて、一つ一つの活動を企画、運営して子どもたちを育む人たちの願いも重なる。16年目を迎えたかしわざきこども大学の在り方について、貴重な御意見を今後もよろしくお願いしたい。